

鎌倉市制 100 周年記念事業として『新 鎌倉市史』の編さんを求める陳情

1. 陳情の要旨

鎌倉市は 2039（令和 21）年に市制 100 周年を迎えるので、長らく中断していた市史編さん事業を再開し、編さんに係る史資料収集、人材確保、体制づくりに着手してほしい。

2. 陳情の内容

鎌倉市では、1958（昭和 33）年、市制 20 周年記念事業として『鎌倉市史』全六巻（総説編、史料編第一、同 第二、同 第三・第四、考古編、社寺編）が発行されました。委嘱された 16 名の鎌倉市史編さん委員により 8 年にわたって編まれたこの『鎌倉市史』は発行当初から高い評価を得て、1978（昭和 53）年までに 4 版を重ね、現在の鎌倉研究においても必見の書とされています。

その後も、30 周年（昭和 44 年）記念事業として『図説 鎌倉回顧』、50 周年（平成元年）に『図説 鎌倉年表』などが発行されました。

さらに、1980（昭和 55）年には鎌倉開府八百年記念事業として『鎌倉市史』続編 全七巻（近世近代紀行地誌編、近世史料編第一、同 第二、近代史料編第一、同 第二、近世通史編、近代通史編）の刊行を目指して編さん委員会が再発足し、まず 1985（昭和 60）年に市制 45 周年記念事業として『近世近代紀行地誌編』を発行、1994（平成 6）年に全七巻を完結させました。

しかし、次の市史刊行に向けて存続すべき市史編さん委員会は再び解散し、市制 60 周年（平成 11 年）、70 周年（平成 21 年）、80 周年（令和元年）のいずれも市史編さん事業は実施されませんでした。その間、諸研究の発展による新たな歴史的発見や加筆修正すべき事象が多くあるのですが、その成果が全く反映されていない状態が続いています。

その上、2012（平成 24）年には、行政課題である「市史編さん事業」が市長部局総務部総務課から教育委員会中央図書館（近代史資料担当）へ移管され、職員、予算共に脆弱な体制のまま 10 年が過ぎています。市図書館は鎌倉に関する資料を網羅的に収集・保存・提供するという任務を負っていますが、新たな市史を編むにあたっては市長の発議と本来の所管である総務部のもとにこの事業に取り組む体制を整え、全庁的な協力体制をもって推進されるべきと考えます。

2039（令和 21）年には市制 100 周年という歴史的な節目の年を迎えることになります。しかし市制 50 周年以降の市史編さんの動きは見ておらず、史資料収集の重要性や編さん委員委嘱の必要性、この事業にかかる期間の長さなどを考慮すると大きな懸念を抱かざるを得ません。市民としては、できるだけ早く『新 鎌倉市史』編さん事業のための体制づくりに着手してほしいと願っていますので、この件について市議会においても是非ご審議いただき、後押しをしていただけるようお願いする次第です。

令和 5 年 2 月 6 日

提出者 図書館とともだち・鎌倉
代表 水岡やす子



鎌倉市議会議長 前川綾子 様